

夢化学の活動と今後の課題

1 14年度活動報告

今年度の活動報告において、リニューアルされた「夏休み子供実験ショー」の成功を一番にあげておきたい。今年度は日本科学未来館7Fに会場を移し、来場者数は、8月23日(金)～8月25日(日)の三日間で5,000名と出足は好調であった。内容的には8つの企業ブースをはじめ、当WGの委員が企画したスライムづくりなどをはじめとする小学生対象の体験型実験教室、TVショー並みに洗練されたクイズショー、いろいろなプレゼンテーションが可能なホールでの講義実験など新しい試みは、すべて大好評であった。

今後の課題を以下箇条書きに述べてみる。

当WGの企画と企業ブース企画のリンク方法の模索。

未来館からのブース参加の促進。

より安全・簡単に取り組める参加型実験ソフトの構築。

なお同時期に未来館の1Fで昨年同様に木炭・アルミニウム電池による化学コンクールが実行委員会により実施された。この企画との相乗効果は少なからずあったと感じるが、それほどの程度であるかきちんと分析してはいない。

また、化学コンクールについては、実行委員会からすでに詳細な報告書がでている。

2 15年度活動企画

「夢化学21」夏休み子供化学実験ショーの開催

今年度に引きつづき「夢化学21」夏休み子供化学実験ショーは、日本科学未来館7Fを利用し、平成15年8月22日(金)～8月24日(日)の三日間開催される。企業のブースは10程度になるので、当WGが担当する入場者参加型実験はスライムをテーマにしたものと電池に関するもの計2テーマが有力である。さらに人気のあった新クイズショーは1日1公演から2公演に回数をふやす流れになってきている。また、会場のレイアウトも当WGと企業ブースがうまく融合できることを配慮し、かつ入口から指定された教室までの経路がわかりやすいような工夫がなされるであろう。

デジタルコンテンツの編集

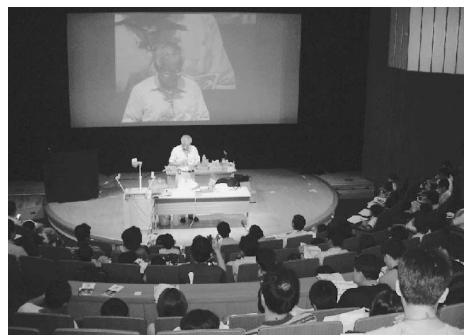
14年度の夏休み子供化学実験ショーに撮影したDV画像などを編集し、デジタルコンテンツとしてネット上に発信する予定である。ホームページや化学QA、自由研究の呼びかけなどインターネットを利用した普及啓発の活動の充実は急務である。これを実現するため当WGメンバーの編成や分担を考慮する必要が生まれらるであろう。

理科大好きプランなど

国が進めるいろいろ理科振興の予算措置に対して当WGも



参加型実験教室(スライム)



講義実験(色と光)



クイズショー

いろいろなソフトが供給できるので、積極的にかかわってほしいと思う。

齊藤幸一(開成学園)

夢化学・メディア対応WG 主査

夢化学・メディア対応WG委員会: 大野哲也(都立葛西南高), 岡村 寿(富士フィルム), 小川治雄(学芸大教育), 斎藤 潔(桐蔭横浜大工), 齊藤幸一(開成学園), 坂井英夫(学芸大附属高), 佐々木和枝(お茶女大附属中), 菅原義之(早大理工), 内藤卓哉(東芝), 中村 聡(東工大生命理工), 茂串圭男(県立春日部東高), 山元公寿(慶大理工), 若林文高(科学博物館)